

大学（高等学校・中学校）別
「岩崎純一総合アーカイブ（IJCA）」資料
収録先リスト

岩崎 純一 作成

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編集部

2012年10月13日 起筆、2019年1月3日 最終更新



目次（第二章の章・節番号および第七章の章番号は、第四巻の本体資料に同じ。）

第一章 概要

第一節 本リストの概要、および大学（高等学校・中学校）と岩崎との関係

第二節 本リスト（五十音順）の見方

第三節 女子大学、女子学生、女性施設、IJAI 女性局どうし、およびこれらと岩崎との関係と、今後の課題

第二章 教育機関における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料

第一節 国立大学における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料

第二節 公立大学における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料

第三節 私立大学における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料
（中略。第四巻の本体資料を見よ。）

第六節 高等学校、中学校等における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料
（中略。第四巻の本体資料を見よ。）

第七章 主に女子大学、大学女子寮、女子学生寮に由来・基礎がある女性グループ
（一般女性寮、女性シェアハウス、DV 被害女性収容シェルターなどの女性施設との共同活動）

付記 アーカイブ IJCA 構想にあたり岩崎と現 IJAI 女性局スタッフが参加した学会

第一章 概要

第一節 本リストの概要、および大学（高等学校・中学校）と岩崎との関係

本リストは、岩崎が大学や高等学校などの学校（学校教育法に定められる学校）または教員から講師・研究者派遣要請を受けて行った講演・講義・授業や研究・実験協力、および、学生が大学（教員）などに諮り岩崎を招いてキャンパス内や教室、各種施設で開催した講話会や集い（「岩崎純一さんに会いたい会」など）について、学校別に、「岩崎純一総合アーカイブ（IJCA）」資料、中でも岩崎の個人著作物などのアーカイブである『岩崎純一全集（IJCW）』との対応を示したものである。

主に、これらの講義などへの参加を逃した学生によるアクセスと利用に供することを目的としているが、無論、一般利用者のアクセスと利用も可能である。

大学と岩崎との関係は、学術分野や親睦の目的ごとに或る程度のカテゴリ分けが可能である。例えば、岩崎の共感覚・脳活動に関する心理学・神経科学・工学分野における研究・実験の拠点は東京大学や専修大学、岩崎の藝術・文芸分野の活動の拠点は東京藝術大学や日本大学、岩崎のセルフアーカイビングの思想・手法に関心を示しているのは東京大学や筑波大学、岩崎を招いている三つの主な女子サークル（「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」）の誕生地・開催地は女子大学（大妻女子大学、共立女子大学、駒沢女子大学、十文字女子大学、東京家政学院大学など）という具合である。

但し、岩崎としては、特定の大学（の学生）に対して偏った鼻衄や忌避の感情は全くなく、いかなる大学からのいかなる分野での協力要請も受け付けている。

むしろ、岩崎と岩崎純一学術研究所（IJAI）が目指す、図書館情報学やインフォマティクスおよび独自の「岩崎式十進分類法（IJDC）」に基づくIJCA・IJCWの高度アーカイブ化構想には、当然のことながら、大学図書館や大学アーカイブズが蓄えている知識の参照が必須であり、今後ともそれらについての知見を可能な限り得るため、しばしば学生に意見を求めることがあることと思う。




高校や中学校と岩崎との関係については、学校側から岩崎に対し、生徒の研究・学習・取材への協力要請があった場合には、大学生に対するのと全く同様に、積極的に協力している。但し少なくとも、学内活動については担当教員の、学外活動については担当教員または保護者の同意があることを確認させていただくこととしている。しかし、昨今問題となっている教員や親による暴力・虐待被害などの個別相談については、当然その同意を要しない。

なお、本リストは、IJCAの主要部分である『全集』（IJCW）の第四巻の一部を成す。その他、適宜下記に従い、第四巻の本体資料や総記十巻の全体を参照せよ。

- 序巻（IJDC・IJCA・IJCW・IJAIの全貌の解説）
- 第一巻（岩崎個人についての解説）
：岩崎に付される肩書き（大学により異なる）については、これを参照せよ。
- 第二巻（岩崎純一学術研究所の解説）
：研究所（IJAI）のスタッフである一部の学生・卒業生は、これを参照せよ。
- 第三巻（岩崎への協力者の解説）
：IJCAの各資料の編纂そのものに携わる学生・卒業生は、これを参照せよ。編纂方針は、第六巻を参照せよ。
- 第四巻（岩崎への協力要請者の解説）
：岩崎へ講義や研究協力の要請を行う大学（学部・学科・教員）はもちろん、学生・卒業生のうち、岩崎の講義を受けるのみならず、自ら先の三サークルなどを大学内外で開催し、岩崎を招くなどしている者は、これを参照せよ。岩崎への協力要請を行った機関のうち、学校以外の機関（特殊法人、学会、テレビ局、番組制作会社、新聞、会社、同人サークルなど）についても、これを参照せよ。
- 第五巻（機関リポジトリとしてのIJCAや著作権に関する利用者向けの解説）
：通常、学生・卒業生はこれを参照すれば足りる。

第二節 本リスト（五十音順）の見方

本リストの見方は、下記の表の通りである。

	<p>クローズドアクセスコンテンツ</p> <p>利用にあたり、岩崎または研究所（IJAI）への申込を要するか、有料学術誌であるか、または特定の教員・研究者・学生のみが閲覧可能な研究・実験データであることを示す。</p>
	<p>オープンアクセスコンテンツ</p> <p>IJAI のサイトにて無料で公開されているか、無料学術誌であることを示す。但し、オープンアクセスコンテンツとして CiNii などで公開されている博士論文や科学論文であっても、岩崎が「被験者 A」などの匿名で扱われているものは、本リストではクローズドアクセスコンテンツとする。</p>
	<p>クリエイティブ・コモンズ・ライセンス</p> <p>岩崎から提供を受けた資料に同ライセンスが付されている場合は、これに従うよう留意すべきである。岩崎純一の著作物の多くは、クリエイティブ・コモンズ 表示・非営利・改変禁止 4.0 国際 ライセンスの下に提供されている。</p>
<p>[内]</p>	<p>大学など学校の内部組織（学部、学科、教員）が実施主体であるもの。</p> <p>講義、研究、実験、取材の内容と資料については、散逸防止の観点から、学校側に文書、音声、写真、映像などの記録が残されていないものと前提して岩崎・IJAI が保存・アーカイブ化しており、岩崎・IJAI へお問い合わせいただいたほうが概ね迅速な提供が可能である。</p> <p>但し、サイエンス分野の実験結果を中心に、非公開の同意書を実験実施者と交わしている資料は、提供しない。また、学生の自由研究であっても、講義・ゼミ内で行われたものはここに含むが、指導教員および学生の同意を得ない限り、提供しない。</p> <p>その他、学生の単位取得に関わる内容などは、専ら各大学の担当教員や教務課に問い合わせよ。</p>
<p>[外]</p>	<p>学生ら個人や外部の学際系親睦団体、女性施設（大学女子寮、一般女性寮、女性シェルター）などが実施主体で、大学のキャンパスや教室、施設や寮の部屋の使用を届け出て行われたもの。</p> <p>その性質上、専ら IJAI（とりわけ、女性局）が問い合わせ受付を代行している。後述の解説を参照せよ。</p>

第三節 女子大学、女子学生、女性施設、IJAI 女性局どうし、および

これらと岩崎との関係と、今後の課題

岩崎本人以外の皆様が立ち上げた、岩崎をめぐる代表的な集いのうち、「岩崎純一さんのお話を聴く会」および「岩崎純一さんとの合同勉強会」は、本リストに掲載した複数の女子大学や大学附属の女性施設（大学女子寮など）に基礎を置き、これらの大学の学生が大いに関わりつつも、元より【外】としての性質が強い会である。

例えば、メンバーたちが、これらの会に岩崎を講師・研究者・アドバイザーとして招き、あるいは、岩崎不在でこれらの会を行うにあたり、学生としてではなく、大学女子寮や、複数の大学の学生の入居が可能な女子学生寮の寮生・同志として実施している自負や自覚がある場合（とりわけ、大学・学部・学科・教員への手続きが不要で、実際に寮則などにも反しない場合）、【内】とも【外】とも解釈できるためである。

しかし、「岩崎純一さんに会いたい会」も、明らかに一つの大学（の指導教員と女子学生）を開催主体とする会（【内】）であったものが、複数の女子大学の学生・卒業生ら自身による女子大学・女性施設での持ち回り開催としての「続 岩崎純一さんに会いたい会」（【外】）に移行し、結局はその他の会（「お話を聴く会」、「合同勉強会」）と同様の形態となったものである。

やがて、三つの会どうしの一部と、他の大学女子寮や一般女性寮、DV 被害女性収容シェルター内の岩崎関連親睦サークル、そして、社家・歌道家の巫女・子女（後述）などが合流した。この合流部分（「岩崎純一研究会」）が、現 IJAI 女性局の母体である。

従って、これらの会と女性局は、もはやメンバー・スタッフたちの本来の所属・卒業大学（下記のリスト）とは建前上は無関係の会（IJAI の女性組織）となったのであるが、それにもかかわらず依然として、一部の女子大学の学生・卒業生および女性施設の入居者・職員が会のメンバーと女性局スタッフ（岩崎の活動のアーカイブ化活動への協力者・参加者）の大半を占めることに変わりはなく、会と女性局内に或る種の「校風」を形成している。主にミッション系、仏教系、神道系など、宗教別の校風が見られる。

神道系の女子校は少ないが、IJAI の神道系の気風は、『全集』（IJCW）第十四巻や第九十二巻に大きく貢献してきた巫女や和歌関連女性が形成している。岩崎個人としては、この巫女による神道系の気風と仏教系の気風を好んでいると言えるが、ミッション系、仏教系の気風を忌避するものではなく、いずれの気風も同等に扱っている。

神道方面からの岩崎への協力者もほとんどが女性であるが、これは、天皇家・皇族の子女の男女数の不均衡や、血統が女系化した冷泉家の現状からも分かるように、ほとんどの巫女家・社家や歌道家において女子しか生まれていないという別の理由による。しかし、これらの女性は極めて聡明であって、IJCA の日本文化分野の発展はこれらの女性のご協力によるところが甚だ大きい。これらの家では、旧来の家業を知る血縁者の女子たちから、血縁のない外部の男性学者が学び、場合によっては形式上の当主として家に入る事例が相

次いでいる。

いずれにせよ、IJAI の本体は、ほとんど岩崎と女性局そのものと見て差し支えないのであり、女性局の大部分は、女子大学の学生・卒業生と、心身の問題により療養生活を余儀なくされつつも IJAI への協力を趣味としている一般女性と、社家・歌道家の巫女・子女により構成されている。IJCA・IJCW の内容を網羅的に把握しているのも、現状はほとんどが女性である。

各学問へのアプローチの手法もやはり出身の女子大学ごとに異なっており、岩崎の学術活動全般への協力姿勢についても、いまだ大学別のリストアップが可能であるため、本リストに掲載する次第である。

『全集』序巻で解説した通り、岩崎が日本の既存大学の図書館やアーカイブ事業、学校教育法の教育観を参照しつつも、これらから離れた高度個人学術アーカイブの構築を目指すのに対し、ここに挙げた女子大学の OG スタッフからは、あくまでも IJAI や女性局の「岩崎純一学術研究学園」化構想ないし「仮想女子学園」化構想が優先的に提案され、一部の女子スタッフからは知的な「女子会」風の学術サロンの雰囲気への導入が望まれているのも、以上のような経緯による。後者の各構想は岩崎（IJAI 全体）の方針ではないが、やや黙認している。

また、各女子学生スタッフにおいて、先輩が行ってきた岩崎の活動への協力を後輩が直接受け継ぐスタイルが多くなっているが、これは元を辿れば、まずは非女子校である専修大学（岩崎の共感覚・認識様態・脳活動を最初に研究した大学）、次に同じく非女子校である東京大学や早稲田大学で見られたスタイル（特に、岩崎の共感覚を複数の女子学生が研究・実験・取材するスタイル）であり、これが女子校に波及し、学外での学術的親睦の構想となったものである。

ところで、IJCA・IJCW の全貌を最もよく把握しているのは、伝統和歌の会「余情会」のメンバーなど、巫女や歌道家の子女であるが、2013 年頃から、これらの女性の皆様がいわゆる許嫁（いいなずけ）のお相手との結婚ラッシュに入り、これまでのように岩崎の活動への協力を時間を取ることができなくなっているか、協力そのものを辞退・終了するに至っている（詳しくは第八・九巻を見よ）。

2019 年には、新天皇の即位と改元に伴う様々な祭祀・儀式に多くの巫女が駆り出され、私の知己の巫女にも該当者がいるほか、経済的事情や天保暦 2033 年問題（第六巻で詳説）などの諸事情により、平成終了後約 15 年以内におけるこれらの子女の皆様の家（旧暦生活や和歌などの伝統的家業）そのものの廃絶も、多くの家で計画されている。

協力者女性の結婚ラッシュ・協力終了ラッシュの到来が予期されていた当時から、岩崎の著作物・資料の整理、とりわけ十進法管理は喫緊の課題となっていたが、2019 年元日の IJAI サイトの正式オープンまでの約 15 年にわたり、これらの女性たちは、IJCA 内の岩崎や皆様の著作物の整理に携わって下さった上に、岩崎に対して実物や著作権（著作隣接権）を譲渡できる貴重本（歌書などの典籍）については、文字通り譲渡して下さるに至った。

岩崎の衷心からの御礼としても、将来的には、これらの研究を行うつもりである。

そのため、今後、IJAI・女性局の運営とIJCA・IJCWの編纂・管理にあたっては、現役
の女子学生、あるいは、大学入学時や卒業時以降における協力を表明して下さっている女
子高校生・専門学校生（とりわけ、女子大学の附属女子高校の生徒）に多大な負荷をかけ
ることになりかねない。しかし、そうならないよう、アーカイブ構築のあり方を熟慮して
いきたいと考えている。一部の古書については、これらの女子スタッフが自由に利用でき
るように環境を整えることも検討している。

第二章 教育機関における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料

第一節 国立大学における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料

● 宇都宮大学



[内] 研究・実験協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

● 京都大学

- 人間・環境学研究科質的心理学研究会



[内] 岩崎による講義資料を『全集』第十八・十九巻に収録。

● 筑波大学

- システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻 CAVE Lab. (ビジュアルサイエンス研究室)



[内] 研究・実験協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

- 情報学群知識情報・図書館学類



[内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

● 東京大学


(本学は、岩崎が2004年に教養学部を中退した母校であるが、その一方で、中退後に岩崎の共感覚・脳活動をはじめ、岩崎について最も頻繁に、かつ継続的に、かつ最多の学部・学科が研究・実験・取材を実施するようになった大学である。この傾向は、現在にまで至る。岩崎からは、これらに参加協力しているほか、大学院重点化に伴って新設された東京大学大学院情報学環・学際情報学府のような東大独自の組織形態を、IJDC構築にあたって参照している。詳しくは序巻を見よ。また、本資料の付記も見よ。)

- 大学院人文社会系研究科（文学部）心理学研究室（統合的認知研究グループ、旧高次視覚研究グループ）




[内] 研究・実験・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。


- 大学院総合文化研究科教養学科・超域文化科学分科

 [内] 研究協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。


➤ 大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系

 [内] 研究・実験・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。


➤ 大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻

 [内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。


➤ 文学部言語文化学科

 [内] 研究協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。


➤ 教育学部教育心理学コース

 [内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。


➤ 大学院教育学研究科臨床心理学コース

 [内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

➤ 大学院農学生命科学研究科

 [内] 研究・実験協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。


➤ 理学部


 [内] 研究・実験協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

● 東京藝術大学

（本学は、学生らが初回の「岩崎純一さんに会いたい会」を開催した大学である。現在は、本リストに記載する他の複数の女子大学の学生および卒業生が「続 岩崎純一さんに会いたい会」として引き継ぎ、持ち回りで開催。）

➤ 美術学部デザイン科、美術研究科

 **[内][外]** 初回「岩崎純一さんに会いたい会」として開催された特別講演の講演資料を『全集』第七十二巻に収録。岩崎まで問い合わせよ。

 **[外]** 「関根ひかり × 岩崎純一 トークイベント（全4回）」の岩崎による発表部分の文字記録の資料を『全集』第八十五巻に収録。


なお、本イベントには日本大学藝術学部・日芸マスコミ研究会の皆様がご参加下さり、下記ブログにご感想を掲載して下さい。

「関根ひかり×岩崎純一 トーク・イベントに行ってきました！」

<http://nuartmasuken.jugem.jp/?eid=774>（日芸マスコミ研究会）


● 東京工業大学

➤ 工学部（学院制に移行）

 **[内]** 研究協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

● 広島大学


➤ 教育学部

 **[外]** 取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

第二節 公立大学における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料

● 会津大学

➤ コンピュータ理工学部数理情報科学講座


 **[内]** 研究・実験・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。


第三節 私立大学における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料


● 大妻女子大学


（本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。）


➤ 家政学部被服学科

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば ー共感覚を通して ー」を『全集』第十九巻に収録。


 [外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。


 [内] 提供資料「対女性共感覚に基づく着物の色目の考案」を『全集』第七十一巻に収録。


 [内] 提供資料「日本色彩大年表」を『全集』第七十二巻に収録。


 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。


➤ 文学部日本文学科

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば ー共感覚を通して ー」を『全集』第十九巻に収録。

 [外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。

 [内] 提供資料「日本色彩大年表」を『全集』第七十二巻に収録。


 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。


 [外] 駒沢女子大学の学生との合同勉強会における岩崎の講義資料「日本人の感性、日本語の特性 ー共感覚から考えるー」を『全集』第七十二巻に収録。


● 共立女子大学


(本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。)


➤ 家政学部被服学科

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば ー共感覚を通して ー」を『全集』第十九巻に収録。

 [外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。

 [内] 提供資料「対女性共感覚に基づく着物の色目の考案」を『全集』第七十一巻に収録。


 [内] 提供資料「日本色彩大年表」を『全集』第七十二巻に収録。


 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。


● 駒沢女子大学


(本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。)

➤ 人文学部日本文化学科

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば ー共感覚を通して ー」を『全集』第十九巻に収録。

 [外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。


 [内] 提供資料「日本色彩大年表」を『全集』第七十二巻に収録。


[外] 大妻女子大学の学生との合同勉強会における岩崎の講義資料「日本人の感性、日本語の特性 ー共感覚から考えるー」を『全集』第七十二巻に収録。


● 十文字学園女子大学


(本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。)

➤ 人間生活学部人間発達心理学科

[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば ー共感覚を通して ー」を『全集』第十九巻に収録。


[外] 武蔵野大学の学生との合同勉強会における岩崎の講義資料「自己意識の減失・解体・分裂などを特徴とする精神疾患女性に見られる鋭敏な共感覚について」を『全集』第二十四巻に収録。

[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。

[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅)」を『全集』第七十二巻に収録。

● 上智大学


➤ 総合人間科学部心理学科

[内] 取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。


● 昭和女子大学

(本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。)

➤ 人間文化学部

[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として


開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身体、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。


● 専修大学

(本学は、岩崎の共感覚について最初に研究・実験・取材を実施した大学である。当初は文学部心理学科が実施したが、のちに心理学科が人間科学部の学科に改組され、ここで研究・実験が継続された。)


➤ 文学部心理学科（人間科学部心理学科へ改組）

 [内] 研究・実験・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。


➤ 人間科学部心理学科

 [内] 研究・実験・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

➤ 専修大学人間科学学会


 [内] 研究・実験・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

➤ 文学部日本文学文化学科

 [内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

● 大正大学

➤ 大学院文学研究科

 [外] ご協力いただいた資料『「疾病及び関連保健問題の国際統計分類(ICD-10)第Ⅴ章 精神及び行動の障害」と第三期岩崎式日本語との対応表 2011年5月版』を『全集』第八十六巻に収録。

● 津田塾大学

➤ 国際関係学科



[外] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

● 帝京短期大学

(本学の学生も、「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」に参加しているが、これまでに主催はしていない。)

➤ 食物栄養専攻栄養士コース



[内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

● 東京家政学院大学

(本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。)

➤ 現代生活学部



[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば 一共感覚を通して 一」を『全集』第十九巻に収録。



[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。



[内] 提供資料「対女性共感覚に基づく着物の色目の考案」を『全集』第七十一巻に収録。



[内] 提供資料「日本色彩大年表」を『全集』第七十二巻に収録。

● 東京工芸大学

➤ 芸術学部デザイン学科




[内] 研究・実験・取材協力資料を『全集』第七十一巻に収録。岩崎まで問い合わせよ。


● 日本女子大学

(本学の学生も、「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、

「岩崎純一さんとの合同勉強会」に参加しているが、これまでに主催はしていない。）


➤ 人間社会学部


[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。


[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的体、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。


● 日本大学


➤ 芸術学部文芸学科


[内] 2015年7月6日の講義資料「文学と共感覚について」を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

[内] 2016年4月19日の講義資料「共感覚的視点からみる文学と哲学」を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

[内] 2016年6月20日の講義資料「共感覚と文学」を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

[内] 2017年7月10日の講義資料「共感覚と芸術」を岩崎が保管。岩崎まで問い合わせよ。

[内] 2018年12月14日の講義資料「共感覚と文学」を『全集』第七十二巻に収録。

[内] 岩崎の寄稿論文掲載誌が岩崎または大学から無料入手可。



➤ 藝術学部図書館



[内] 岩崎の寄稿論文掲載誌が岩崎または大学から無料入手可。



● 文化学園大学（文化女子大学の項を見よ。）

- 造形学部
- 大学院生活環境学研究科

● 文化女子大学（文化学園大学としての男女共学化により廃止）

（本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。但し、2012年に男女共学である文化学園大学へ移行しており、女子大としての活動は終了。現在は、卒業生が文化学園大学の女子学生を集めて開催。）


- 造形学部（文化学園大学への移行後も継続）




[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば 一共感覚を通して一」を『全集』第十九巻に収録。





[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。


 [内] 提供資料「日本色彩大年表」を『全集』第七十二巻に収録。

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的体、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。

➤ 大学院生活環境学研究科（文化学園大学への移行後も継続）

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば 一感覚を通して 一」を『全集』第十九巻に収録。


 [外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。


 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的体、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。


● 武蔵野女子大学（武蔵野大学としての男女共学化により廃止）


（本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。但し、2003年に男女共学である武蔵野大学へ移行しており、女子大としての活動は岩崎の学術活動のごく初期におけるもののみで終了。現在は、卒業生が武蔵野大学の女子学生を集めるか、女子学生自身が集まって開催。）

➤ 文学部日本文学科（武蔵野大学への移行後も継続）

 [外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば 一感覚を通して 一」を『全集』第十九巻に収録。

 [外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。


[内] 提供資料「日本色彩大年表」を『全集』第七十二巻に収録。


[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。


● 武蔵野大学


（本学は、学生らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する大学の一つである。2003年に武蔵野女子大学から男女共学である武蔵野大学へ移行しており、女子大としての活動は岩崎の学術活動のごく初期におけるもののみで終了したが、共学化以降も、武蔵野女子大学時代の卒業生が女子学生を集めるか、女子学生自身が集まって開催。）

➤ 看護学部看護学科

[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「ヒトのからだ、こころ、ことば 一 共感覚を通して 一」を『全集』第十九巻に収録。

[外] 十文字学園女子大学の学生との合同勉強会における岩崎の講義資料「自己意識の減失・解体・分裂などを特徴とする精神疾患女性に見られる鋭敏な共感覚について」を『全集』第二十四巻に収録。

[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。

[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。

➤ 文学部日本文学科（武蔵野女子大学の項を見よ。）

● 立教大学

➤ 現代心理学部心理学科



[内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

● 早稲田大学

➤ 第一文学部（現在は廃止）



[内] 研究・取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

➤ 文学学術院・文化構想学部現代人間論系



[内] 講義資料「音に色が見える世界 ー共感覚とは何かー」を『全集』第七十二巻に収録。

➤ 基幹理工学部表現工学科



[内] 研究協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

➤ 先進理工学部物理学科



[内] 研究協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

第六節 高等学校、中学校等における岩崎の講演・講義資料および研究・実験協力資料

● 鷗友学園女子中学校・高等学校

（本学は、生徒らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する前述の大学の学生に協力している学校の一つである。但し、保護者の同意なき参加は岩崎が認めていない。）



[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。



[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。

● 北杜市立甲陵中学校



[内] 取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

● 清教学園中学校



[内] 取材協力資料を岩崎が保管。現状は提供不可。

● 東京家政大学附属女子中学校・高等学校

(本学は、生徒らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する前述の大学の学生に協力している学校の一つである。但し、保護者の同意なき参加は岩崎が認めていない。)



[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。



[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。

● 豊島岡女子学園中学校・高等学校

(本学は、生徒らが「続 岩崎純一さんに会いたい会」、「岩崎純一さんのお話を聴く会」、「岩崎純一さんとの合同勉強会」を持ち回りで開催する前述の大学の学生に協力している学校の一つである。但し、保護者の同意なき参加は岩崎が認めていない。)



[外] 女子大学学生・一般女性合同の「岩崎純一さんのお話を聴く会」として開催された講話会の講話資料「日本の女性の情緒について」を『全集』第四十三巻に収録。



[外] 学生・一般女性による合同勉強会における岩崎の講義資料「岩崎純一が語る人間の原初的身體、精神、言語齋の巫女、アイヌ女性、琉球女性、精神障害女性の、そして自らの五感世界をめぐる岩崎人間学の旅」を『全集』第七十二巻に収録。

第七章 主に女子大学、大学女子寮、女子学生寮に由来・基礎がある女性グループ

(一般女性寮、女性シェアハウス、DV被害女性収容シェルターなどの
女性施設との共同活動)

ここには、専ら女性たち自らが岩崎をめぐる立ち上げたグループや共同体を挙げる（前述の大学別リストと連動）。詳細は第二巻及び第四巻の本体資料を見よ。

グループ名称のあとに、主な参加大学の学生を記す。実際の会の主な開催場所も、これらの大学のキャンパスや教室である。その他、様々な女性施設や喫茶店での開催が多い。

一方、岩崎自身が設立者・主宰で、旧「岩崎純一のウェブサイト」の訪問者の交流会である「岩崎純一の個人交流会・勉強会」、及びその内部サークルの扱いである（あった）各グループについては、第二巻を見よ。

- 「岩崎純一さんとの合同勉強会」
 - 大妻女子大学の学生・卒業生
 - 駒沢女子大学の学生・卒業生
 - 十文字学園女子大学の学生・卒業生
 - 専修大学の女子学生・卒業生
 - 日本女子大学の学生・卒業生
 - 文化学園大学の女子学生・卒業生
 - 文化女子大学（文化学園大学としての男女共学化により廃止）の学生・卒業生
 - 武蔵野女子大学（武蔵野大学としての男女共学化により廃止）の学生・卒業生
 - 武蔵野大学の女子学生・卒業生
- 「岩崎純一さんのお話を聴く会」
 - 大妻女子大学の学生・卒業生
 - 共立女子大学の学生・卒業生
 - 駒沢女子大学の学生・卒業生
 - 専修大学の女子学生・卒業生
 - 帝京短期大学の学生・卒業生
 - 東京家政学院大学の学生・卒業生
 - 東京大学の女子学生・卒業生
 - 武蔵野女子大学（武蔵野大学としての男女共学化により廃止）の学生・卒業生
- 「岩崎純一さんに会いたい会」（東京藝術大学内の特別講座として開催）
 - 東京藝術大学の女子学生・卒業生
- 「続 岩崎純一さんに会いたい会」（上記「会いたい会」の参加女性による後継グループ）
 - 大妻女子大学の学生・卒業生
 - 共立女子大学の学生・卒業生
 - 駒沢女子大学の学生・卒業生
 - 昭和女子大学の学生・卒業生

- 専修大学の女子学生・卒業生
- 東京家政学院大学の学生・卒業生
- 文化学園大学の女子学生・卒業生
- 文化女子大学（文化学園大学としての男女共学化により廃止）の学生・卒業生
- 武蔵野大学の女子学生・卒業生

- 上記以外のグループ及び施設については、個別に岩崎まで問い合わせよ。
なお、上記の三グループの構成女性の一部は第三巻に述べる協力者・参加者に昇格し、さらにその女性の一部は第二巻に述べる IJCW 編纂者や特定女性スタッフに昇格している。これら三グループの女性は、女性専用施設内にて IJCW を閲覧できる閲覧室を運営している。

付記 アーカイブ IJCA 構想にあたり岩崎と現 IJAI 女性局スタッフが参加した学会

私、岩崎が IJAI、IJCA、IJCW を本格的に構想するにあたり、当時の協力者（現 IJAI 女性局スタッフ）と共に参加した最初の学会は、下記の通りである。私の個人アーカイブ構想はここに始まったと言えるので、記しておく。

東京大学大学院情報学環附属社会情報研究資料センター高度アーカイブ化事業 共同研究会+記念シンポジウム

研究者資料のアーカイブズ-知の遺産 その継承に向けて-

■日時・会場：

2011年11月26日（土） 東京大学本郷キャンパス 福武ホール 入場無料 要事前申込み

■主催：

東京大学大学院情報学環附属社会情報研究資料センター、メディアコンテンツ総合研究機構

■午前の部（開演 10:00）

東京大学大学院情報学環附属社会情報研究資料センター&アート・ドキュメンテーション学会共同研究会

総長関係資料と教育史・大学史研究-渡邊洪基・古在由直資料から- 谷本宗生（東京大学）
近現代の科学史研究における資料のアーカイブ化の意義-坪井誠太郎資料調査から得られた
知見より- 柄内文彦（金沢工業大学）

研究者資料のアーカイブ構築と活用：油井正一資料を中心に 本間友（慶應義塾大学）

小野秀雄関係資料のアーカイブと展示-コレクション活用の問題点と意義- 玉井建也・福重
旨乃 他（東京大学）

Laura Ashley archive room-ブルームズベリー・コレクション 1987 を 中心に- 要真理子
（大阪大学）

アリス・ルーズベルト旧蔵コレクションについて 筒井弥生

「文化資源のデジタル化に関するハンドブック」におけるドキュメンテーションの特徴
北岡タマ子 他（お茶の水女子大学）

アート・ドキュメントとウィキペディア／ウィキメディア ウィキペディア日本語版参加者
日下九八

■午後の部（開演 13:00）

シンポジウム

【基調講演】草稿資料の整理・保存・供用をめぐる諸問題—東京女子大学丸山文庫の経験
から 平石直昭（東京大学/帝京大学）

世界音楽のアーカイビングをめざして：小泉文夫記念資料室の概況と展望 植村幸生（東京
藝術大学）

研究者資料か？研究資料か？：京都大学研究資源アーカイブの活動と課題 山下俊介・五島
敏芳（京都大学）

高度アーカイブ化事業と研究者資料のアーカイブズ—坪井正五郎と小野秀雄関係資料を中
心に—研谷紀夫（東京大学）

【特別講演】平賀譲デジタルアーカイブ —その概要と新しい歴史史料研究システムの提
案— 大和裕幸（東京大学）

パネルディスカッション 司会：吉見俊哉（東京大学）

■閉会（18:00）
